

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-43	小学校	国語科	国語	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 201・202	新しい国語 二上・新しい国語 二下		

1. 編修の基本方針

豊かな学びが未来を拓く

児童は、言葉で思い、言葉で考え、言葉で表現します。人や社会、自然と言葉でつながり、自らの世界を広げていきます。

「言葉の力」は、児童の生きる力そのものです。この教科書は、児童が国語を豊かに学ぶことを通じて、未来を拓く基盤となる確かな「言葉の力」を身に付けることを目指し、以下の3点を柱として編集されています。



特色

1

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

学習の見通しとめあてを明確にし、主体的に学習に取り組むようにするとともに、友達との学び合いを通じて、共に伸びる学習の楽しさに気付くようにします。

特色

2

「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしながら確かな「言葉の力」を身に付けるとともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めるようにします。

特色

3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感するとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

学習の見通しとめあて明確にし、主体的に学習に取り組むようにするとともに、友達との学び合いを通じて、共に伸びる学習の楽しさに気付くようにします。

1. 「頑張りたい」ことを明確にして、主体的に学習に取り組む。

- 学習を見通す際に大切なのは、自分がどんなことを頑張る学習に取り組むかを明らかにすることだと考えました。児童が自分自身のめあてを持つことによって、成長への意思を持って主体的に学習に取り組むようにしました。

一年間の学しゅうでがんばりたいこと (上9)

年間の学習を見通したうえで、二年生の学習で楽しみなこと、頑張ってできるようにしたいことを友達と伝え合います。年間の学習のめあてを持つよう促し、成長への願いや期待を引き出します。

また、夏休み前と冬休み前には、「これまでの学しゅうをふりかえって」(上109, 下77)を設けています。学習の成果を確かめるとともに、今後への課題を見だし、めあてを新たにすることを意図しています。



2. 対話的な学びを通じて、共に伸びる。

- 「みんなで楽しく学ぶ」ことで、友達と共に成長したいという思いを引き出したいと考えました。協働して課題に取り組んだり、互いの考えを共有して深め合ったりしながら、対話的に学ぶことの価値や楽しさに気付くようにしました。

「すきなこと、なあと」(上10～11)

第2～6学年を通じ、学年の最初に、友達との対話を通して互いの考えを広げたり深めたりする学習を位置づけました。ここで身に付ける対話の力が、年間を通じて児童の対話的な学びを支えます。



「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしながら確かな「言葉の力」に身に付けるとともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めるようにします。

1. 「何ができるようになるか」を明示し、確実に身に付ける。

- 国語の力をしっかりと伸ばすためには、各単元で「何ができるようになるか」を児童自身がきちんと認知することが大切だと考えました。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての単元に「言葉の力」を明示し、「何ができるようになるか」を明確にして学習を進め、確実に身に付けることができました。

「ことばの力」(左…単元導入/下…単元末:「ことばで絵をつたえよう」上78～81の例)

単元導入では「何ができるようになるか」を、単元末では学習で身に付いた大切なことをおさえます。

★
ことばの力
★
じゅんじよに気をつけて
せつめいする

- ・じゅんじよを あらわす
- ことばを つかう。
- ・何について 話すかを
- 言うてから せつめいする。
- ・聞く 人が
- 思い浮かべられるように、
- 形や 大きさ、場しよ、
- むきなどを 話す。

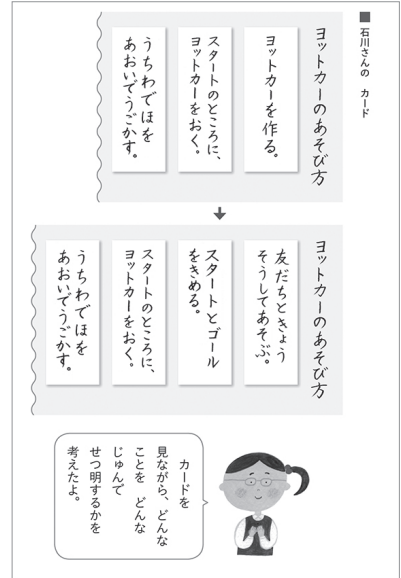
2. 思考を「見える化」して、学びを深める。

- 児童が多様な見方や考え方を働かせて学びを深めるようにするためには、教科書に登場する児童キャラクターがどのような見方や考え方を働かせて学習に取り組んでいるかを「見える化」する必要があると考えました。教室の児童が思考を深める一助となるように、思考の手立てとしてのノートやメモ、カードの例や、思考の表れとしての児童キャラクターのつぶやきを随所に提示しました。



思考の表れとしてのつぶやきの例 (上 67)

「あそび方をせつ明しよう」(下 28～32)
説明することがらを書き出したカードを、取捨選択したり並べ替えたりしながら、何をどのような順序で説明するかを考えます。



特色 3

「学び続ける心」をしっかり育てる

学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感するとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。

1. 自分の成長に気づき、学び続ける意欲につなぐ。

- 学習を振り返って「できるようになったこと」を確かめ、自分の成長を実感することで、もっといろいろなことにチャレンジしたい、学び続けたいという思いを抱くことができると考えました。単元末と学年末に、学習を振り返る場面を設け、自分の成長を確かめるとともに、さらなる学習への意欲を高めるようにしました。

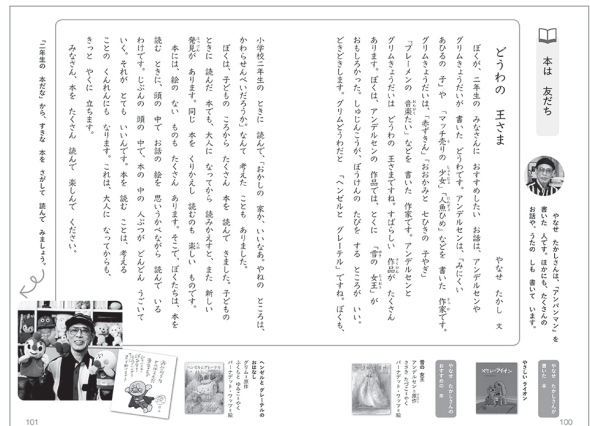
「一年間の学しゅうをふりかえって」(下 144～145)



2. 年間を通した読書指導で、読書に親しむ習慣と態度をはぐくむ。

- 生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくむためには、年間を通じて読書を促すことが重要だと考え、単元の学習に関わる本を紹介した「こんな本もいっしょに」のほか、随所に読書指導に関わる内容を位置づけました。(「としょかんへ行こう」上 28～31, 「本は友だち」上 100～107, 「どんな本を読んだかな」下 72～75 など)

「本は友だち」(上 100～107)



2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(頁)
たんぼぼ サツマイモのそだて方 ビーバーの大工事 あなのやくわり	●動植物や身近な事柄など、児童の関心が高い題材を取り上げた説明的文章の読解を通じて、知識や教養、真理を求める態度を養うようにしています。(第1号)	上 35～43 上 83～94 下 8～22 下 120～131
すきなこと、なあに たからものをしょうかいしよう どんな本を読んだかな すきな場しよを教えよう	●個々の興味や関心、価値観の交流を通じて、多様な個性を認め合い尊重する態度を養うようにしました。(第2号)	上 10～11 下 34～39 下 72～75 下 132～137
絵を見てお話を書こう	●感性豊かに表現することを通じて、創造性を培うようにしました。(第2号)	上 142～147
風のゆうびん屋さん	●さまざまな仕事や働く人に関わる教材や題材を取り上げ、勤労を重んずる態度を養うようにしました。(第2号)	上 15～25
こんなことをしているよ この人をしょうかいします	●家庭や学校での自分の役割、家族や友達との協力を目向ける題材を取り上げ、自律の精神や協力を重んずる態度を養うようにしました。(第2号、第3号)	上 44～47 下 106～113
名前を見てちょうだい あまやどり お手紙 ないた赤おに	●自尊感情や自他の相互理解と敬愛、協力の大切さに関わる文学的文章の読解を通して、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしました。(第3号)	上 55～70 下巻頭 下 48～63 下 146～153
うれしくなることばをあつめよう あそび方をせつ明しよう 「ありがとう」をつたえよう	●他者と協働したり関係を結んだりする学習活動を通じてその楽しさや大切さに気づき、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うようにしました。(第3号)	上 116～123 下 28～32 下 66～70
たけのこぐん たんぼぼ サツマイモのそだて方 ビーバーの大工事	●自然の恵みや動植物の生命力や知恵について述べた文章の読解を通じて、生命を尊び、自然を大切にすることを養うようにしました。(第4号)	上巻頭 上 35～43 上 83～94 下 8～22
かんさつしたことを書こう	●身近な自然との触れ合いや観察の中で気づいたことを表現する活動を通して、生命を尊び、自然を大切にすることを養うようにしました。(第4号)	上 72～75
言いつたえられているお話を知ろう かさこじぞう おばあちゃんに聞いたよ	●我が国に古くから伝わる言語文化に触れることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うようにしました。(第5号)	上 96～99 下 78～95 下 100～105
外国の小学校について聞こう 聞いてみよう	●他国の文化に対する理解や尊重に資する教材・題材を取り上げました。(第5号)	上 50～53 上 148

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 全ての児童が使いやすく分かりやすい紙面の配慮と工夫

① ユニバーサルデザインへの取り組み

- シンプルなデザイン、色使いを用い、大切な内容がすぐに目につくようにしました。
- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 弱視の児童の学習のために、教科書と同一の内容の拡大教科書を発行します。

② 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の研究者に専門的見地からの監修・校閲を受け、全ての児童にとって読みやすく使いやすい配慮をしています。

- 語のまとまりが分かりやすいように、文節ごとの分かち書きをするとともに、単語や文節の途中での改行を避け、全ての児童に読みやすくなるようように配慮しています。
- 行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット（点）を示しています。

③ 人権上の配慮

- 作話例や文例、写真やイラストなどに登場する人物について、性別による偏りがないようにしました。
- 特にイラストの表現では、身体的特徴の過度な強調は避けるよう配慮しました。

④ 造本上の工夫

- 本文の文字には、本教科書のために特別に開発した教科書体を使用しています。おおらかでしっかりとしたデザインで読みやすいだけでなく、硬筆書写の手本をモデルとしており、文字指導に適した書体です。
- 第2学年の児童の発達の段階を踏まえ、インターネットの利用を前提とするような学習は避け、必要に応じて教師用指導書に示唆するようにしました。
- 児童が長期にわたって毎日使用することをふまえて、特に堅牢な針金綴じで製本しています。
- 通学時の持ち運び等の負担を軽減するため、十分な強度を保ちつつ軽量化した用紙を使用しています。
- 環境に配慮して、再生紙、植物油インキを使用しています。

2. 今日の課題への取り組み

① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶのか（「言葉の力」）を明示するとともに、学習過程を具体的に記述しているので、無理なく指導できます。
- 教師用指導書を通じ、学習指導をさまざまな面から支援します。また、インターネットを通じ、学習に役立つデジタルコンテンツを配信します。

② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う題材は、他教科等との合科的・関連的指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。（「こんなことをしているよ」上44～47、「かんさつしたことを書こう」上72～75、「サツマイモのそだて方」上83～94、「あそび方をせつ明しよう」下28～32、「『ありがとう』をつたえよう」下66～70、「この人をしょうかいします」下106～113など）

③ 道徳教育との関連

- 児童どうしの協働や考えの共有など、対話的な学習活動を通して、相互理解を深める態度を養います。
- 自他の尊重や生命に対する畏敬、我が国や他国の伝統や文化の尊重等に関わる教材や題材、学習活動を通して、豊かな道徳性を養うようにしました。（本趣意書p4「対照表」参照）

④ 環境教育への対応

- 自然の不思議や動植物の生態を取り上げた文章の読解や、身近な自然との触れ合いや観察で気付いたことや考えたことを表現したり伝え合ったりする学習活動を通じて、自然に親しみ、自然を大切にする態度を養うようにしました。（「たんぼぼ」上35～43、「かんさつしたことを書こう」上72～75、「ビーバーの大工事」下8～22など）

⑤ 国際理解教育への対応

- 他国の文化や生活に関わる教材や題材を通じて理解を深める学習を設けました。（「外国の小学校について聞こう」上50～53など）

3. その他の取り組み

① デジタル教科書の発行

- 教科書と同内容の学習者用デジタル教科書を発行します。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表，担当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-43	小学校	国語科	国語	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 201・202	新しい国語 二上・新しい国語 二下		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色

1

「伸びたい気持ち」をしっかり引き出す

1. 自らの成長を思い描く。見通しとめあて作りを重視。

- 学年の冒頭では、「国語の学しゅうのすすめ方」(上6)を確かめ、「二年で学しゅうする『ことばの力』」(上7)を見通したうえで、二年の学習で楽しみなこと、頑張ることができるようにしたいことを考えるページを設けました。

一年間の学しゅうでがんばりたいこと (上9)

自分なりの学年のめあてを持つことで、自らが成長した姿を思い描き、一年間の学習への期待と意欲を高めるよう促します。



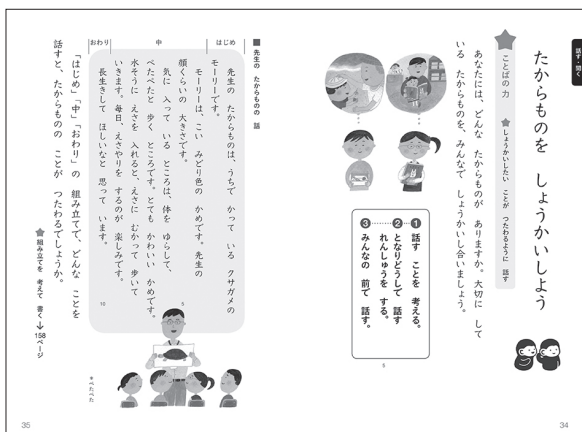
共に成長するキャラクター

それぞれにめあてを持って学習を進める4人のキャラクターが、教室の児童とともに成長していきます。



2. 「できるようにになりたい」を引き出す。

- 単元の導入部では、その単元で身に付けたい「言葉の力」を明示するとともに、児童にとって身近なテーマ、関心の高い事象に関する題材や魅力的な教材を提示し、学習意欲を高めるようにしました。



「たからものをしょうかいしよう」(下34-39)

自分の宝物への思いが伝わるように表現したいという気持ちで、「言葉の力」を学ぶ意欲を高めます。

3. 協働と共有で、共に伸びる。

- 友達と協働して学習の課題に取り組むこと、考えを共有して互いに認め合い高め合うことを大切にすることで、対話的な学びを実現し、仲間と共に伸びる喜びを味わえるようにしました。



「言葉の力」がしっかり身に付く

1. 「言葉の力」を明確にし、しっかりと身に付ける。

- 単元ごとに「言葉の力」を明示しています。単元の学習を通じて、「何ができるようになるか」を明確にして取り組むことができます。

「ことばの力」(左…単元導入/下…単元末:「ことばで絵をつたえよう」上 78～81 の例)
 ○ 単元導入…学習で身に付けたいことを確かめ、課題を明確にします。
 ○ 単元末…課題にそって取り組む中で学んだ大切なことを明記した「言葉の力」で、身に付いたことをしっかりおさえます。

ことばの力
★じゅんじよに 気をつけて せつめいする

★ことばの力
★じゅんじよに 気をつけて
せつめいする

- ・じゅんじよを あらわす ことばを つかう。
- ・何について 話すかを 言うてから せつめいする。
- ・聞く 人が ようすを 思ういかべられるように、 形や 大きさ、場しよ、 むきなどを 話す。

お手紙
がまくんの 家にかえるくんが やつてきて くれました。 どうしたんだい!

★ことばの力
★じゅんじよに 気をつけて せつめいする

●人ぶつが 気もちを そうぞうしながら、「お手紙」を 読もう。自分だったら どんな 気もちに なるかと、 いうことを 考え、 人ぶつが 気もちを そうぞう しましょう。

「ことば」で 読んで、ぼくが 感じたことを 話したら、 また 気になったり するかも あります。

★ことばの力
★じゅんじよに 気をつけて せつめいする

★ことばの力
★じゅんじよに 気をつけて せつめいする

★ことばの力
★じゅんじよに 気をつけて せつめいする

「お手紙」単元導入 (下 48～49)
 下巻からは、物語文と説明文の単元冒頭(教材本文の前)に、導入ページを設けています。
 右ページでは、「言葉の力」を明示し、どんなことに気をつけて読むかを確かめて課題を明確にするよう促します。
 左ページでは、教材文への関心を高めるよういざないます。

2. 思考を言葉にして、学びを深める。

- 思考の手立てとしてのノート例やメモ例、カード例、思考の表れとしての児童キャラクターのつぶやきを随所に提示しました。多様な見方・考え方を働かせて思考することを促し、深い学びへと導きます。

「こくごのノートのつくりかた」
 ノート指導を特に重要と考え、学年の初めに、考えを広げたり深めたりするためのノート作りについて学習するようにしました。

●ノートの仕方は、
 ・手しゆうした 日づけ
 ・しゆうした ことば
 ・しゆうした かんがえ
 ・しゆうした ことば
 ・しゆうした めあて
 ・しゆうした ことば
 ・しゆうした ことば
 ・しゆうした ことば
 ・しゆうした ことば
 ・しゆうした ことば
 ・しゆうした ことば

3. 生きて働く「言葉の力」を。

- 身に付けたい「言葉の力」に即した言語活動を通して学ぶようにしました。言語活動の目的や条件に合わせて、多様な見方や考え方を働かせることにより、実の場で生きて働く「言葉の力」を身に付けます。

思考の表れとしてのつぶやきの例 (上 67)

えつちゃんがいすいに 会った 人ぶつは、 だれだったかな。

ぼうしを おいけて、 どのうで、 何回か 場しよが かわったね。



「あそび方をせつ明しよう」 (下 28～32)

友達や一年生に、手作りおもちゃの遊び方を説明するという言語活動を設定しています。活動の目的と条件に合わせて、何を、どんな順序で説明すれば伝わるかを考えます。

■指導するカード

ヨットカーのあそび方
 ヨットカーを作る
 ヨットカーをあそぶ

ヨットカーのあそび方
 友だちとあそぶ
 そうしてあそぶ

ヨットカーのあそび方
 ヨットカーをあそぶ
 ヨットカーをあそぶ
 ヨットカーをあそぶ

ヨットカーのあそび方
 ヨットカーをあそぶ
 ヨットカーをあそぶ
 ヨットカーをあそぶ

特色
3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

1. 学習を振り返り、国語を学ぶ意義に気付く。

- 単元末には「言葉の力」とともに、学習を「ふりかえる」場面を設け、自らの学習を価値付ける視点を投げかけました。自分の頑張りに気付くことで、国語を学ぶことへの肯定感や有用感を高め、さらに頑張ろうという意欲を喚起します。

「ふりかえる」と「ことばの力」（「ことばで絵をつたえよう」の例 / 上 81）

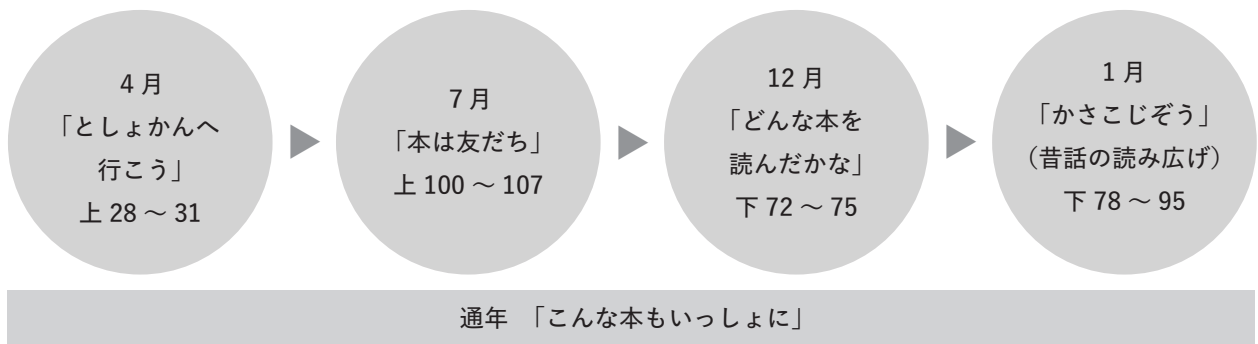
学習のプロセスに目を向け、どんなことに気をつけたり頑張ったりして取り組んだかを振り返るように促します。「言葉の力」と対照することで、今後への課題を見出すことにもつながります。

★
ことばの力
せつめいする
じゅんじよに 気を つけて
・じゅんじよを あらわす
ことばを つかう。
・何に ついて 話すかを
言ってから せつめいする。
・聞く 人が ようすを
思いうかべられるように、
形や 大きさ、場しよ、
むきなどを 話す。

ふりかえる
あいてに 分かりやすく せつめいする ために、
どんな ことに 気を つけて 話しましたか。

2. 年間を通した読書指導で、本に親しむ習慣・態度をはぐくむ。

- 年間を通じて読書指導に力を入れています。さまざまな本と出会い、自らの世界を広げていく楽しさや喜びを味わうことによって、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。



検討の観点と内容の特色

観 点	特色及び該当箇所例（頁）
1. 教育基本法の遵守	
	● 教育基本法第1章第2条の各項に照らし、教育の目標に示された内容を幅広く取り扱うことができるよう、教材の選定や学習活動の設定に意を用いました。
2. 学習指導要領の遵守	
	● 小学校学習指導要領（国語科）に示された各学年の内容をもれなく扱うとともに、教科及び各学年の目標が確実に達成できるよう、単元や教材の内容を設定し、適切に組織・配列しています。
3. 内容・組織	
① 内容・系統	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の学年の目標と内容をもれなく扱うとともに、各教材や単元において扱う内容を重点化し、6年間を通じて段階的・系統的に学習が積み上がるようにしています。 ● 各単元ごとの学習の重点を「言葉の力」として明示し、取り扱う内容が一目で分かるようにしました。（上 25, 43 など） ● 既習の「言葉の力」を学習に生かしたり、相互のつながりを考えたりする際に使えるように、上下巻の付録に「一年で学しゅうした『ことばの力』」を、下巻には併せて「二上で学しゅうした『ことばの力』」を設け、それぞれ一覧できるようにしました。（上 154～155, 下 156～159）
② 程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせて適切なものを取り上げました。 ● 学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数、分量とし、領域ごとのバランスにも配慮しました。また、単元ごとに、内容に応じて適切な時数を配当しました。

③ 組織・配列	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月を、学習の基盤作りの期間とし、学習の基礎となる事項についての単元・小単元を位置づけ、学んだことを以後の学習で活用できるようにしました。(上10～31) ● 学年の最初に年間の学習を見通す場面(上9)、夏休み前と冬休み前に「これまでの学しゅうをふりかえって」(上109, 下77)、学年末に「一年間の学しゅうをふりかえって」(下144)を設け、年間を通して見通しを持つとともに、随時各自の学習を振り返って価値づけ、今後への課題を見いだせるようにしました。 ● 領域ごとの学習のつながりに配慮するとともに、領域相互の関連にも配慮しました。
④ 学習過程	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元の冒頭に、その単元の「言葉の力」を提示し、「何ができるようになるか」を意識し、課題意識をもって学習に向かうことができるようにしました。(上15, 116, 下8, 44など) ● 友達との協働的な学びや学び合い、考えの共有の場面を多く設定し、対話的な学びを展開できるようにしました。(上10～11, 119, 下21, 118など) ● 単元末には、学習の「ふりかえり」と、単元で学んだ大切なことを付記した「言葉の力」を提示し、学習の価値づけとともに、今後への課題を見いだせるようにしました。
④ 資質・能力の育成への配慮	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知識及び技能については、各領域の学習の中で繰り返し扱うとともに、必要に応じて取り立てて学習する場面を設け、確実に定着が図れるようにしました。 ● 第1学年で学習した漢字の習得を確かにするため、「かん字のれんしゅう一年でならったかん字」(上34, 下43他)を年間9箇所設け、第1学年配当漢字の全て漢字を取り上げて書けるようにしました。また、かたかなの習得を確かにするため、上下巻各1箇所の「かたかなのれんしゅう」(上54, 下33)を設けました。 ● 語彙を豊かに広げる学習を設定しました。(上114～115「はんたいのいみのことば」、138～139「にたいみのことば」、140～141「ことばあつめ」、下40～41「なかまになることば」、42「ことばあつめ」、114～118「ことばを広げよう」、119「組み合わせたことば」など) <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1単元1領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や条件にそった課題解決的な学習を通して、必要な思考力、判断力、表現力等が身に付くようにしました。 ● 思考を言語化して考えを広げたり整理したりするツールとしてのノートやメモ、カードを重視し、随所に例示しました(上13「山下さんのメモ」、45「木村さんのノート」、下29「石川さんのカード」など)。特にノートについては、学習の基盤となるものとして重視しました。(上26～27「こくごのノートのつくりかた」) ● 話例や文例、児童キャラクターの吹き出し等に、学習に関わるさまざまな視点や観点を示唆し、児童が言葉による多様な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現できるようにしました。
④ 指導計画作成への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う題材は、他教科等との合科的・関連的指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。(上44～47「こんなことをしているよ」、上72～75「かんさつしたことを書こう」、上83～94「サツマイモのそだて方」、下28～32「あそび方をせつ明しよう」、下66～70「『ありがとう』をつたえよう」、下106～113「この人をしょうかいします」など) ● 2学期制、3学期制のどちらの指導計画にも無理なく対応できるようにしています。 ● 複式指導に配慮して、第1学年と第2学年で、なるべく同じ時期に同じ領域の学習を位置付けるように配列しています(第1学年の入門期を除く)。

4. 特別支援教育や色覚特性などへの配慮(ユニバーサルデザイン)

① 特別支援が必要な児童への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習に集中し、紙面の中のだいたいな情報に着目できるように、シンプルなレイアウトや色使いを工夫しました。 ● 語のまとまりが分かりやすいように、文節ごとの分かち書きを用いています。また、文意を理解しやすいように、文節で改行しています。 ● 行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット(点)を付けています。
② 色覚の多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
③ 拡大教科書の発行	<ul style="list-style-type: none"> ● 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。

5. 表記・表現、印刷・造本に関する配慮

① 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現をしています。表記や用語は統一した基準を設けています。
② 活字	<ul style="list-style-type: none"> ● 本文には、手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠し、見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発・使用しています。
④ 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期にわたる使用、通学時の持ち運びに配慮し、用紙は十分な強度を持ち、かつ軽量なものを使用しています。表紙は耐久性に優れた加工を施し、製本は特に堅牢な針金綴じを用いています。 ● 印刷は鮮明で正確です。 ● 環境に配慮し、再生紙や植物油インキを使用しています。

2. 対照表

該当箇所 (ページ)	図書の構成・内容 (単元名)	学習指導要領の内容				配当時数					配当学期
		知識及び 技能	思考力・表現力・判断力等			知・技	話・聞	書く	読む	計	
			話すこと ・聞くこと	書くこと	読むこと						
上 10	すきなこと、なあに	(1)ア	(1)オ(2)イ				2			2	一 学 期
上 12	いくつあつめられるかな	(1)オ		(1)ア				2		2	
上 15	○お話を音読しよう 風のゆうびん屋さん	(1)ク		(1)ウ	(1)イエ(2)イ			2	8	10	
上 28	としょかんへ行こう	(3)エ				2				2	
上 32	かん字の書き方	(1)エ				3				3	
上 35	○たんぼほのひみつを見つけよう たんぼぼ	(2)ア		(1)ウ	(1)アオ(2)ア			2	8	10	
上 44	こんなことをしているよ	(1)ウ		(1)アイオ (2)ア				8		8	
上 50	外国の小学校について聞こう	(2)ア	(1)エ(2)ア				4			4	
上 55	○声やうごきであらわそう 名前を見てちょうだい	(1)ク		(1)ア	(1)イエ(2)イ			2	10	12	
上 72	かんさつしたことを書こう	(1)ウ		(1)アウ(2)ア				6		6	
上 76	かたかなで書くことば	(1)ウ				3				3	
上 78	ことばで絵をつたえよう	(2)ア		(1)イ(2)ア			5			5	
上 83	○文しょうのちがいを考えよう サツマイモのそだて方	(2)ア		(1)ウ	(1)アウ(2)ア			2	10	12	
上 96	言いつたえられているお話を知ろう	(3)ア			(1)カ(2)イ				6	6	
上 100	本は友だち	(3)エ				4				4	
上 110	○しを読もう いろんなおとのあめ/ 空にぐうんと手をのばせ	(1)ク			(1)イエ				3	3	
上 114	はんたいのいみのことば	(1)オ				2				2	
上 116	うれしくなることばをあつめよう	(1)ア	(1)オ(2)イ				8			8	
上 125	○気持ち音を音読であらわそう ニャーゴ	(1)ク		(1)ア	(1)エオ (2)イ			2	10	12	
上 138	にたいみのことば	(1)オ				3				3	
上 142	絵を見てお話を書こう	(1)ウ		(1)イウオ (2)ウ				10		10	
下 8	○どうぶつのはみつをさぐる ビーバーの大工事	(2)ア		(1)ウ	(1)ウカ(2)ウ			6	9	15	
下 26	主語とじゅつ語	(1)カ				3				3	
下 28	あそび方をせつ明しよう	(1)ウ		(1)イウエ				7		7	
下 34	たからものをしょうかいしよう	(1)イ	(1)アイウ (2)ア				7			7	
下 40	なかまになることば	(1)オ				3				3	
下 44	同じところ、ちがうところ	(2)ア		(1)アイウ				5		5	
下 48	○読んだかんそうをつたえ合おう お手紙	(1)カ		(1)ウ	(1)エオ(2)イ			3	9	12	
下 64	おくりがなに気をつけよう	(1)ウ				3				3	
下 66	「ありがとう」をつたえよう	(1)キ		(1)アエ(2)イ				5		5	
下 72	どんな本を読んだかな	(3)エ			(1)カ				6	6	
下 78	○むかし話をしょうかいしよう かさこじぞう	(3)アエ		(1)オ	(1)エカ(2)イ			4	10	14	
下 96	声に出してみよう	(1)イ				3				3	
下 100	おばあちゃんに聞いたよ	(3)イ		(1)ア				6		6	
下 106	この人をしょうかいします	(2)ア		(1)イウオ (2)ア				10		10	
下 114	ことばを広げよう	(1)アオカ		(1)エオ				6		6	
下 120	○あなのやくわりを考えよう あなのやくわり	(1)ア		(1)イ	(1)ウオ(2)ア			4	8	12	
下 132	すきな場しよを教えよう	(1)イ	(1)アウ(2)ア				8			8	
下 138	「ことばのアルバム」を作ろう	(1)ウ		(1)エオ				7		7	
計						29	34	99	97	259	
										書写および予備	56
										総計	315